



学園通信

◆2021年(令和3年)11月19日発行 ◆Vol.52

故きを温ねて、新しきを知る

帯広葵学園のあしあと

(平成29年10月19日 北海道新聞)

平成29年、「濱口瑛士絵画展 in 夕張」について

学校法人帯広葵学園 理事長 上野敏郎

平成29年2月、初めて濱口瑛士君の絵画展を帯広で開いたのですが、同じ年の10月、夕張市でもこの絵画展を開いています。主催はもちろん帯広葵学園です。

なぜ、同じ年に同じような絵画展を2度開いたかと言えは理由は二つあります。一つは、帯広葵学園は昭和39年の葵幼稚園から始まっていますが、開園50年の記念事業を行っていませんでした。

確かに、平成28年3月に帯広葵学園関係者が出席する創立50周年記念交流会を開催していますが、これは毎年やっていた辞令交付式後の職員歓迎会を拡大したものでした。

そこで、しっかりと記録に残る記念事業をやりたいと考え、夕張で瑛士君の絵画展を開催しそれを記念事業にすることにしました。なぜ、夕張かと疑問を持つ方も多いと思います。当然のことです。

その答えは、平成28年、帯広葵学園は創立50年を節目として児童発達支援教室「あおいとりプラス」を開設しています。この時に、夕張で同じような教室を運営する方に大変お世話になったのでした。そのご恩返しをしたいと思います。当時夕張市長は、現在北海道知事を務める鈴木直道さんでしたが、まち再建のために懸命な努力をされていました。その夕張を、瑛士君の絵画展を開くことで応援したいとも思った訳です。

もう一つは、瑛士君は北海道のまちをよく知りませんでした。帯広も初めて見るまちでした。ぜひ、夕張のまちも瑛士君に見てもらい瑛士君のこれらに役立ててもらいたいと思ったのです。まだ見たこともない夕張を見たことのない瑛士君に、夕張をイメージした絵を描いてもらいクリアファイルをつくりました。そのファイルを、帯広葵学園の50周年事業記念として夕張の小中学生全員に寄贈することができたことは意義あることだったと考えています。



濱口瑛士絵画展 in 夕張で配布したポスター(右)と記念ファイル(左)



北海道新聞

発達障害のため、読み書きは苦手だが、緻密な筆致の絵画で「異才の少年画家」と呼ばれる東京の中3生。

清水沢地区公民館で、20日まで開催中の自らの作品展会場を14日に訪れ、来場者約70人の前で公開制作を行った。初めて訪れた夕張で引かれた「外国を思わせる深い森や豊かな自然」に着想を得た作品をマジックで約40分かけて仕上げた。



才能を持ちながら、学校生活になじめない子どもたちの個性を伸ばす「異才発掘プロジェクト」(2014年开始)の1期生だ。描きたいものは「頭の中に絶えず浮かぶ。その一部を切り取って絵にする。」と話す。

小学校の時に、学校で初めて絵を誉められた時の喜びを今も忘れない。「絵は私の表現方法。出会えてよかった。」(藤田香織里)

学校法人 帯広葵学園

〒080-0022 帯広市西12条南17丁目3 難波ビル2F
TEL 0155-23-7604 / FAX 0155-67-5778
URL <https://www.obihiroaoi.ed.jp/>

